

子どもシェルターの居心地に対するスタッフ達の取り組みと内なる思い

齋藤成美、佐藤純子、金谷光子
新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】子どもシェルターとは中学卒業から20歳未満を対象とした子どもの緊急避難先であり、児童自立生活援助事業に位置付けられている¹⁾。子ども一人に対して担当の弁護士が付くことによって、親権の侵害問題を克服し、一時保護所としての機能を果たす。現在、子どもシェルターは、全国に10施設(この数年のうちに13施設より減少)のみであり、運営費不足の課題も抱えている。入居中は、親権や退所先の生活について、子ども自身が人生の主体となって選択することができる。

しかしながら、緊急避難先であるという性質から、子どもにとっての居心地は二の次にされがちで、不自然な環境でもある。

本研究の目的は、シェルターのスタッフ達が、子ども達にとって安心できる雰囲気づくりをどのように取り組んでいるのか、子ども達の成長・発達に沿った支援をどのように行っているのか、子ども達が置かれている状況に対する共感的な姿勢をどのように意識して表現しているのかについて、スタッフの内なる思いと合わせて明らかにすることである。

【方法】研究デザイン：自己記入式質問紙調査法

研究期間：平成29年4月～8月22日まで

研究対象：全国の子どものシェルターのスタッフ及び管理者

研究方法：アンケートの結果内容についてウィルコクソンの順位和検定を用いて分析した。

【結果】施設管理職への配布数11部(回収率63.6%)、及びスタッフへの配布数30部(回収率63.3%)。入居定数は平均5.8人である。退去先としては、親、自立援助ホームの順に多かった。スタッフ達の子どもへの支援の項目では、[子どもが安心できる雰囲気づくり]の取り組みに関して、「いつもしている」「意識している」と答えた者が88.8%。[子どもの成長・発達に沿った支援]の取り組みに関して、「いつもしている」「意識している」と答えた者が86.2%。[子ども達が置かれている状況に対する共感的な姿勢]の取り組みに関して「全くそう思う」「ややそう思う」と答えた者が84.2%であった。

次に、ウィルコクソンの順位和検定を用いた結果、以下の点で有意差が見られた。シェルターでの経験年数の中央値3年を境に2群に分け比較すると、「その子の気持ちを味わってみる」ことに関してはシェルターでの経験年数が3年未満のスタッフ達のほうが多かった。また、「周りの

大人に対して憤りを感じる」という項目にも、3年未満のスタッフ達のほうが多かった。スタッフの年齢の中央値50歳を境に2群に分け比較すると、50歳以上のスタッフのほうが子どもの成長・発達に応じた決まりごとで対応していた。また、「自分の感情が表に出ているときがある」という項目に対し、50歳未満のスタッフのほうが「ややそう思う」と答えた。さらに、心が折れてしまいそうな時になることはないと答えたグループの方が、子どもの体験を受け入れられていた。スタッフの専門性からみると、保育士よりも社会福祉士の方が子どもに対して擁護的であった。子どもシェルターの課題(記述式)としては、<働くスタッフの心理支援>や<関係機関とのネットワークの強化><退去先の資源><運営資金の調達><子どもを守る為の規則>という点で改善が必要という意見があった。

【考察】子どもシェルターで保護されるという事実を含め、自分自身の課題に対して適切な方法で乗り越えていくことがシェルターにいる子ども達の大きな課題である²⁾。支援しようとするほど、子どものもつ悲しみや怒りに巻き込まれる可能性は高くなる中で、今回の研究協力者である子どもシェルターのスタッフ達は、子どもが居心地よくいられることに関して真摯に取り組んでいた。一方でスタッフの年齢やシェルターでの経験年数、保有資格によって、子どもに対して抱く感情が異なることや、時にはネガティブな感情を抱くこともわかった。スタッフ自身の感情は、子ども達にとって共感的姿勢の表現に影響するだけでなく、子どもシェルター全体の雰囲気にも影響するものである。今後、子ども一人一人に対する支援の質を高めるためには、前述したようにスタッフの心理支援・関係機関とのネットワークの強化が課題であると考えられる。

【結論】今回の研究協力者たちは、子どもが安全な場所だと認識でき、居心地が良いと感じられるような場所づくりへの努力が見られた。また、スタッフの年齢やシェルターでの経験年数、保有資格によっても子どもとの関わり方に違いが見られた。

【謝辞】アンケート調査にご協力いただいた子どもシェルターの管理者およびスタッフの皆様は心より感謝申し上げます。

【文献】

- 1) カリヨン子どもセンター・子どもセンターてんぼ・子どもセンター「パオ」・子どもシェルターモモ:居場所を失った子どもを守る子どもシェルターの挑戦カリヨン+てんぼ+パオ+モモ.明石書店,166,2009.
- 2) 遠藤野ゆり：虐待された子どもたちの自立・現象学から見た思春期の意識.東京大学出版学会,95,2009.